

# 地域再生計画

## 1 地域再生計画の名称

日本体育大学と連携した障がい者スポーツを核とする地方創生

## 2 地域再生計画の作成主体の名称

網走市

## 3 地域再生計画の区域

網走市の全域

## 4 地域再生計画の目標

### (1) 地域の概要

網走市は北海道の北東部に位置し、オホーツク海に面する、面積 471.00 平方キロメートル、人口 36,973 人（平成 28 年 10 月 31 日）のまちである。網走という地名は、一般的に「ア・パ・シリ」（我らが見つけた土地）、「アパ・シリ」（入り口の地）、「チパ・シリ」（幣場のある島）などのアイヌ語に漢字をあてたものとされている。

道東の玄関口である女満別空港に隣接し、首都圏からの交通の利便性が高く、また、気候は亜寒帯に位置しているが、年間を通して降雨量・積雪量は少ないという特色を持ち、全国屈指の日照率（平年 42%）を誇る。

これらの条件を生かすため、1980 年代から夏のスポーツ合宿を誘致するため、呼人（よびと）地区に最高品質の芝を持つグラウンドを整備した他、宿泊施設等と連携し、選手・スタッフのホスピタリティーの向上に努め、現在では、陸上、ラグビー、バイアスロンなど年間約 2,000 人のトップアスリート及びスタッフが毎年、夏の合宿地として網走に訪れている。

また、昭和 27 年に精神科を有する北海道立向陽ヶ丘病院が、昭和 49 年には道東唯一の北海道立の養護学校が網走市内に設立され現在まで運営されている。各施設等の概要は以下のとおりである。

### スポーツ施設

- : ラグビー日本代表スタッフから日本一の芝生と絶賛された網走スポーツ・トレーニングフィールドは、41.4ha（東京ドームの 8.9 倍）の敷地に、ラグ

ビー、サッカー場などのコートが7面、テニスコートが16面（オムニコート）、そのほか野球場、多目的屋内ドーム（人工芝）などの施設が配置されており、

また市内には、平成25年3月21日付でJOC競技別強化センターとして認定を受けた陸上競技場（全天候型舗装）、総合体育館、プールや平成28年3月22日付けでパラリンピック競技別強化拠点施設として認定を受けた網走射撃場などの体育施設が設備されている。

#### 障がい者教育施設

： 北海道網走養護学校は、昭和49年に網走市呼人地区に設置され、平成28年度は、網走市のほか、近隣の北見市、斜里町、大空町出身の児童・生徒が、小学部（20名）、中学部（14名）、高等部（22名）、訪問学級（11名）が在籍している。

また、日本初となるスポーツ教育を軸とする特別支援学校である日本体育大学附属高等支援学校（3年制：1学年40人）が網走市大曲に平成29年4月開校予定である。

#### 医療施設

： 網走市向陽ヶ丘地区に設置された北海道立向陽ヶ丘病院（昭和27年設立、昭和29年に網走市から北海道に移管）は精神科・神経科があり、病床数は170である。平成27年4月の職員数は医師5名、看護師55名を含む82名である。

また、救急医療体制は、脳神経外科、リハビリテーション病院や総合病院によって病院群輪番制を整え、重篤な事故には、道東ドクターヘリによる救急搬送体制を整備している。

## （2）地域の課題

前述のように、障がい者がスポーツを行える環境にあるものの、障がい者スポーツの指導者が市内にいないため、専門的な指導が受けられないという現状にあり、市内に限らず北海道内においても指導者の絶対数が不足している。

また、各種トレーニング施設に加え温泉や医療機関等も充実しており、女満別空港に隣接しているなどトップアスリートのトレーニング環境として充実しているが、冬期間は積雪寒冷地であることから、トレーニングを行える場所が限られている状況にある。

## （3）今後の取り組み

網走市では、平成29年4月の日本初となるスポーツ教育を軸とした日本体育大学附属高等支援学校の開校を契機に、屋内150m直線走路を拠点とし、日本体育大

学をはじめとする各関係団体と連携し障がい者スポーツの推進による賑わいと活力にあふれるまちづくりを目指すものである。

また、ラグビーや陸上などの多くのトップアスリートの合宿地として評価されており、平成 28 年 3 月 22 日付けでパラリンピック競技別強化施設として認定を受けた網走射撃場を有していることなどから、東京オリンピック・パラリンピックホストタウンとして一次登録され、2019 ラグビーワールドカップベースキャンプ地への申請を行っているところであり、これまでのノウハウを活用し、冬期間などさらなる合宿誘致の取組を行っていくものである。

#### 【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成28年度 (1年目)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)	平成31年度 (4年目)	平成32年度 (5年目)	KPI増加分の 累計
合宿等による 経済波及効果	577,981千円	0千円	51,030千円	51,030千円	102,060千円	102,059千円	306,179千円
パラリンピック 強化指定選手	0人	0人	3人	3人	6人	6人	18人
障がい者雇用 の促進	94人	0人	3人	3人	4人	4人	14人

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

本計画は、平成 29 年 4 月に開校予定の日本初のスポーツ教育を軸とした日本体育大学附属高等支援学校が整備する 150m 直線走路を屋内化（国内最長）し、1 年中、雪や風雨などの天候に影響されない障がい者スポーツのトレーニング、研究、指導者育成のフィールドとして活用する。

具体的には、次の各事業を行う。

#### (1) 150m 直線走路屋内化事業

日本体育大学附属高等支援学校が整備する 150m 直線走路を屋内化し、通年利用が可能な障がい者スポーツ振興の拠点とする。

#### (2) 障がい者スポーツ振興事業

市内の障がい者スポーツのすそ野を広げるため、関係機関による意見交換を行うとともに日本体育大学と連携し、選手及び指導者を対象とした講習会を開催する。

#### (3) スポーツ講習会開催事業

日本体育大学と連携し、市内の小中高生やその指導者を対象として講習会を開

催し、競技力・指導力の向上を図る。

(4) **スポーツ関連人材育成プログラム開発事業**

障がい者スポーツや市内の指導者育成の課題や方向性についてとりまとめた人材育成プログラムを作成する。

(5) **合宿誘致推進事業**

国内外のトップアスリートの合宿を誘致するため、各種大会や競技団体を訪問し、トップセールスによるPR活動を行う。

(6) **150m 直線走路利用促進事業**

市内のスポーツ団体等の利用促進を図るため、初年度に限り、利用料金を市が負担する。

## 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

北海道網走市

② 事業の名称

日本体育大学と連携した障がい者スポーツを核とする地方創生

③ 事業の内容

本事業は、網走市において、日本体育大学附属高等支援学校が整備する屋内 150m 直線走路工事の一部に助成し、当該施設を核に、日本体育大学をはじめとする市内外の関係機関等と連携し、選手・指導者向けの講習会、障がい者スポーツの育成の研究、トップアスリートの合宿誘致等を行う。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

放課後や休日開放による施設利用料及び市補助金により施設の維持経費をまかなう。

【官民協働】

網走市は日本初のスポーツ教育を軸とする日本体育大学附属高等支援学校が整備する国内最長となる 150m 直線走路の屋内化工事に助成するとともに障がい者スポーツの推進、指導者の育成等に取り組む。

日本体育大学附属高等支援学校は、屋内 150m 直線走路を整備するとともに、日

本体育大学総合スポーツ科学研究所と連携し、障がい者トップアスリート、指導者の育成及び育成方法の体系化を図りその成果を網走市をはじめ全国に還元する。また、地域貢献の一環として放課後や休日に施設を開放するとともにアスリートや地域の小中学生等を対象に講習会を開催する。

体育協会や市内各スポーツ団体、福祉団体、経済団体等で構成する「(仮称)協力会」を設立し、屋内 150m 直線走路を活用した事業や障がい者スポーツの振興等について検討を行う。

#### 【政策間連携】

障がい者福祉とスポーツ振興を行う本取組は、障がい者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことを目指す「スポーツ基本法」、「網走市教育大綱」を具現化するものである。

また、多くの障がい者がスポーツを楽しみ、市民と触れ合う機会が多くなることで障がい者理解が深まり、市内における就労機会の確保に繋がることが期待される。

#### 【地域間連携】

東北北海道の競技団体等と連携し、日本体育大学のリソースを活用した指導者講習会やスポーツ教室等を開催する。

### ⑤ 重要業績評価指標 (KPI) 及び目標年月

	事業開始前 (現時点)	平成28年度 (1年目)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)	平成31年度 (4年目)	平成32年度 (5年目)	KPI増加分の 累計
合宿等による 経済波及効果	577,981千円	0千円	51,030千円	51,030千円	102,060千円	102,059千円	306,179千円
パラリンピック 強化指定選手	0人	0人	3人	3人	6人	6人	18人
障がい者雇用の 促進	94人	0人	3人	3人	4人	4人	14人

### ⑥ 評価の方法、時期及び体制

定量目標の達成状況を確認するために、毎年度各指標の集計を行い、網走市選択する未来会議において、結果について評価を行う。評価結果を踏まえ、目標の効果的な実現に向けた必要な計画の見直しや変更を行う。検証結果は市のホームページで公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

総事業費 337,883 千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成 33 年 3 月 31 日（5 ヶ年度）

### 5-3 その他の事業

#### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

#### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 合宿施設のバリアフリー化

事業概要：障がいを持つ選手の利便性向上を図るため、市内のスポーツ施設のバリアフリー化を進める。

事業主体：北海道網走市

事業期間：平成 29 年度～平成 32 年度

(2) 障がい者理解促進の取組

事業概要：障がい者理解をより一層深めるため、市内における各種イベント等において、啓発事業を行い、誰もが安全・安心して暮らせるまちの推進を図るもの。

事業主体：北海道網走市

事業期間：平成 28 年度～平成 32 年度

(3) 障がい者就労促進の取組

事業概要：障がい者の就労の推進を図るため、市内各事業所の理解促進や障がい者とのマッチング事業等に取り組むもの。

事業主体：北海道網走市

事業期間：平成 28 年度～平成 32 年度

(4) 日本体育大学と連携した子どもの体力づくり推進

事業概要：日本体育大学と連携し、小学校における体育授業の中で、日本体育大学の指導者・学生等のサポートにより実演授業を実施し、子どもの体力・運動能力の向上を図るものである。

事業主体：北海道網走市

事業期間：平成 28 年度～平成 32 年度

## 6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成33年3月31日まで

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

### 7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

定量目標の達成状況を確認するために、毎年度各指標の集計を行い、網走市選択する未来会議において、結果について評価を行う。評価結果を踏まえ、目標の効果的な実現に向けた必要な計画の見直しや変更を行う。

#### 目標1

経済波及効果については、毎年度末、網走市の算出により把握する。

#### 目標2

パラリンピック強化指定選手数については、毎年度末、日本障害者スポーツ協会の指定状況により把握する。

#### 目標3

障がい者雇用の促進については、毎年度末、網走市の調査により把握する。

### 7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

	事業開始前 (現時点)	平成28年度 (1年目)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)	平成31年度 (4年目)	平成32年度 (5年目)	KPI増加分の 累計
合宿等による 経済波及効果	577,981千円	0千円	51,030千円	51,030千円	102,060千円	102,059千円	306,179千円
パラリンピック 強化指定選手	0人	0人	3人	3人	6人	6人	18人
障がい者雇用 の促進	94人	0人	3人	3人	4人	4人	14人

### 7-3 目標の達成状況に係る評価の手法

毎年度、網走市が、網走市選択する未来会議及び網走市議会地方創生総合戦略検討特別委員会により目標の達成状況等に係る検証を行い、その結果について市のホームページ等により公表する。